

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数 11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678000177
法人名	特定非営利活動法人 環境福祉サービス
事業所名	グループホーム ヴィラおたつめたつ
訪問調査日	平成 20 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 8 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	4678000177
法人名	特定非営利活動法人 環境福祉サービス
事業所名	グループホーム ヴィラ おたつめたつ
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町納官 5173番地 (電 話) 0997-24-8557

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年8月27日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(20年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	12 人	常勤	4人, 非常勤	8人, 常勤換算 6.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000円		その他の経費(月額)	5,000円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	－円	
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要(7月 25日現在)

利用者人数		9 名	男性 5 名		女性 4 名
要介護1		0	名	要介護2	0 名
要介護3		3	名	要介護4	5 名
要介護5		1	名	要支援2	0 名
年齢	平均	87.8 歳		最低	79 歳
				最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院 田上診療所 田中歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム ヴィラ おたつめたつは、海に見える高台に位置している。利用者が音楽に合わせて楽しそうに、太鼓・鈴・タンバリン・手拍子を叩いて練習して、「利用者一人ひとりが主役」という理念の実践に、取り組んでいる。練習の成果を福祉祭りなどで発表したり、地域の方々とのふれあいを大切にして、「積極的な地域との交流」の理念も実践に向けて、職員は取り組んでいる。集落・学校の行事に積極的に参加して、地域に根ざした事業所である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価の結果は、ミーティングで報告して、運営者・管理者で終末期の対応指針を検討している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、常勤の職員で、検討して作り上げている。自己評価は、職員全員で取り組み、職員の意識あわせやケアの振り返りに役立てて、質の確保や向上に活かすことを望みます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	定期的に、公民館長・民生委員・包括支援センター職員の参加を頂き開催している。事業所の報告をして、参加者からは、町の行事予定を教えて頂いたり、アドバイスを貰っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はなく、窓口に意見箱はあるが、活用されてない。面会時、家族からの要望は、申し送りノートで職員は共有している。家族が集まる行事の時、意見交換をしたり、アンケート等で、家族からの意見・要望を聞く工夫を期待します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の夏祭り・運動会に参加している。小学校の地域交流の授業の一環で小学生との交流をしている。学校の先生の5年目・7年目研修の受け入れをしている。

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の開設当時から「積極的な地域との交流を行います」と理念に掲げ取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、自分たちのペースで動かず、利用者のペースで動くことを心がけたり、地域の行事に積極的に参加するなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り・運動会に参加している。小学校の地域交流の授業の一環で小学生との交流をしている。学校の先生の5年目・7年目研修の受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、常勤の職員で、検討して作り上げている。昨年の外部評価の結果は、ミーティングで報告して、運営者・管理者で終末期の対応指針を検討している。	○	自己評価・外部評価は、職員全員で取り組み、職員の意識あわせやケアの振り返りに役立てて、質の確保や向上に活かすことを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、公民館長・民生委員・包括支援センター職員の参加を頂き開催している。事業所の報告をして、参加者からは、町の行事予定を教えて頂いたり、アドバイスを貰っている。		

鹿児島県 グループホーム ヴィラおたつめたつ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター・町の担当者に、職員の研修場所や書類提出時の相談をしている。市の職員に、年一回、事業所の行事に参加してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ヴィラおたつめたつ通信を発行して、利用者の暮らしぶりや職員の異動など報告している。金銭出納簿を2ヶ月ごとにコピーして、家族に渡している。緊急時は、電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はなく、窓口に意見箱はあるが、活用されていない。面会時、家族からの要望は、申し送りノートで職員は共有している。	○	家族が集まる行事の時、意見交換をしたり、アンケート等で、家族からの意見・要望を聞く工夫を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去一年では、1名の離職である。新規採用者は、入職2日前からオリエンテーションを行いマニュアルに沿って研修している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、年5回の研修計画があり、新人が参加している。外部研修は、職員は年1回は参加するように心がけている。研修報告は、毎月のミーティング時にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の5つのグループホームで、相互研修をしようと呼びかけはしているが、実現していない。	○	島内のグループホームとの相互訪問・勉強会を重ね、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護度が高い利用者が多く、家族からアセスメントを聞き、本人が置かれている環境を知った上で、職員は、声かけを多くし、利用者の好きなことをしてもらいながら馴染んでもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、自分たちのペースで動かず、利用者と一緒に喜怒哀楽を共にし、昔の遊びなどを学び、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を利用者の会話の中からや、家族からの情報から把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングで職員の意見をもらい、家族からの要望を聞いて、6ヶ月ごとに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに計画担当者が、モニタリングをしている。対応できない変化が生じた場合は、その都度見直しをしている。	○	計画担当者だけでなくモニタリングせず、職員全員でサービス内容について振り返りの場として、取り組むことを望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院の際、洗濯物を届けたり状態の把握に努めている。通院の支援・墓参り・外泊時の送迎など、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医になっており、定期受診の支援をしている。定期受診後、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う家族の意思確認書は、作成されていない。昨年の改善点に上げられた、終末期対応の指針の作成に取り組んでいるが、事業所が対応できる方針が統一されているとはいえない。	○	重度化に伴う家族の意思確認書を作成され、終末期に事業所が対応できる方針を統一することを望みます。
5. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで守秘義務について、職員に意識付けしているが、徹底するまでに至っていない。個人別の記録物は、事務所で管理している。	○	ミーティングや勉強会で、事業所外での職員の秘密保持の徹底を図られることを望みます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで、利用者が主役であることを理念にも掲げ、希望に添って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助をする利用者が多く、職員が一緒に食卓で食事をしていない。職員からの声かけ・会話が少なく、食事を楽しむことができる支援とはいえない。	○	職員は、利用者の介助をしながらでも利用者と一緒に食卓を囲み、声かけして会話を楽しみながら食事支援に心がけることを望みます。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は、利用者全員、シャワー浴を毎日施行している。冬場は、隔日を心がけている。入浴を拒む方には、言葉かけの工夫をして、入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・庭の草取り・モップがけ等、利用者の力を活かした役割をしてもらっている。毎朝音楽に合わせて太鼓や鈴をたたいて合奏を楽しんでいる。ボールころがし・風船バレー・輪投げ等レクリエーションを楽しむ支援をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	桜・アジサイ・ひまわりなど花見を兼ねて、ドライブに行っている。天気の良い日は、敷地内で散歩や日光浴をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけていない。外出傾向のある人は、職員と一緒に出かけている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練をしている。夜間想定・地震想定避難訓練は、していない。非常食としてインスタントラーメンの備蓄をしているが、飲料水は備蓄していない。	○	夜間・地震想定自主訓練を毎月でも重ねられ、職員が自信をもって誘導できるように期待します。飲料水の備蓄をすることを勧めます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態・希望に合わせ、ミキサー食やおにぎりにするなど支援している。水分量チェック・栄養バランスのチェックは、していない。	○	利用者個々の摂取量の把握は、脱水症状の早期発見、病状変化の早期発見に大切なことです。ぜひ、水分摂取量や献立の栄養バランスのチェックを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや食堂の天井は高く、風通しもよく、窓からは海が見え、南国ムードの雰囲気である。広いホールには、ソファやマッサージチェアが置かれている。玄関やテーブルに、ひまわりや千日紅の花が飾られ、季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳と木の床と半々になっており、ベッド使用・布団使用と利用者が使いやすくなっている。風通しがよく、日除けに蓆を立てかけている。利用者それぞれがテーブル・椅子・時計・鏡など持ち込んで、個性のある各居室である。		